

先輩社員に聞く電気工事の魅力



仕事への向上心が成長につながる

小島 涼

山梨電設興業株式会社
工事部

2018年3月卒業 同年4月入社
出身校 日本工学院八王子専門学校

――電気工事業界に入ろうと思った動機を聞かせて下さい。

小島 普通高校を卒業後、就職した会社は建設業者で、社内で研修を受けてから建設現場に入りました。現場にはさまざまな職種の人たちが出入りしていますが、そのなかでもひときわカッコイイと感じたのが、電気工事会社の現場代理人でした。

左官、とび土工や鉄筋あるいは管工事でもそうですが、現場にいる人たちが使っている機械や道具はすべて電気がなければ動きませんし、電気工事会社が現場にいないと、ほとんどの建設業者は仕事をする事ができません。現場に就くと、いつもそんなことは感じていました。

現場で、図面を広げながら、職人さんにいろいろと指示しているのもカッコ良かったのですが、さまざまな職種の人たちと打ち合わせしている姿も魅力的でした。だからこそ、電気工事会社の現場代理人がカッコ良く見えたのだと思います。

――電気工事会社の現場代理人への熱い思いは、どのように展開していったのですか。

小島 電気工事会社の現場代理人がカッコイイと思ってますから、どうしても電気工事会社の動きが気になってくるわけです。現場のさまざまな人たちと一緒に動いて、活躍する姿を見ているうちに、ますます現場代理人への関心が高まり、電気工事会社に転職して、現場代理人になろうと決意しました。

ただ、電気工事会社の現場代理人になるためには、勉強して、資格（電気工事士）を取らなければならないことは知っていたので、勤めていた会社を1年で辞め、2年制の日本工学院八王子専門学校に入りました。

――山梨電設興業との出会いはいかがでしたか。

小島 学校の先輩がたくさん入社しているということは、

就職担当の先生からも聞いていてよく分かっていたので、それだけの魅力がある会社だと思って、とても興味がありました。会社説明会に参加したとき、初めて会った担当者の方がとっても優しい雰囲気の方で、また案内してもらった職場も家族的なムードがいっぱいだったので、説明会を終えて帰宅するときには、就職するなら山梨電設興業と心に決めていました。

面接の時も、日本工学院の先輩が同席してくれていたので、気持ちの面でも緊張することはありませんでした。リラックスしたムードだったので、気楽な雰囲気です。いろいろと質問もできました。やはり、先輩がいるのと、いないのでは緊張感が違うので、本当に助かりましたし、会社の気遣いが感じられてとても嬉しかったことを覚えています。

――入社して1年間で過ぎました。

小島 まだまだ覚えなければならないことがたくさんありますし、資格の取得もしなければならぬなど、やらなければならないことはいっぱいありますが、仕事は楽しいです。

自分から努めて、協力会社の職人さんたちとか、現場のいろいろな職種の人たちに分からないことを教えてもらうようにしています。

仕事をしていて、自分自身の成長を感じることができるとは、そう多くあるとは思いませんが、電気工事業は、分からないことや、知らないことを少しずつでも分かたり、知ることによって、自分自身が成長できるので、喜びもあります。

現場が終わって、職人さんたちから飲み誘われると、何となくですが、自分自身が認められたような気持ちになって、ますます頑張ろうって思っています。

これからもっと勉強して、カッコイイ現場代理人を目指します。